

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年7月29日

事業ID:2024002473

事業名:千葉県旭市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営と車両事業(2年目)

団体名:(特)スポーツアカデミー

代表者名:代表者 大場 弘樹 印

TEL:0479-62-8870

事業完了日:2025年10月31日

■契約時

事業費総額	:	15,100,000 円
自己負担額	:	3,200,000 円
助成金額	:	11,900,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	14,075,520 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	2,175,520 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	11,900,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 千葉県旭市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2024年4月16日~2025年3月31日(週3日、15時から19時まで開所)
(2)場所:千葉県旭市
(3)対象:20名(家庭や自身に課題を抱えた小学生中心)
(4)内容:地域の人たちとの交流を通じて、人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもの早期発見や見守りを行う。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 千葉県旭市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2024年4月16日~2025年3月31日(週3日、15時から19時まで開所)
(2)場所:千葉県旭市
(3)対象:平均30名(家庭や自身に課題を抱えた小学生中心)
(4)内容:子ども食堂を通して、地域ボランティアの人たちとの関わり合いの中で、コミュニケーションを進んでとうとする子どもたちが増えた。地域の子どもたちを地域全体で見守っていこうとする気運が生まれつつある。

(3)成功したこととその要因

教育委員会を通して、市内の小学生全員へ募集案内を配布していただいたため、登録者の人数が50名に増えた。

(4)失敗したこととその要因

年度内に送迎用のワゴン車が納車されず、子どもたちの送迎計画が実施できなかった。支援が必要な子どもたちに限り、軽自動車ですて送迎することとなった。

(5)事業内容詳細

別添の検討会資料を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 千葉県旭市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの車両整備 (1)整備車両:乗用1台 (2)整備状況:利用児童の送迎のための整備 (3)定員:10名

(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 千葉県旭市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの車両整備 (1)整備車両:乗用1台 (2)整備状況:利用児童の送迎のための整備 (3)定員:10名



(3)成功したこととその要因

自動車メーカーとの連絡を密に取り合い、車両の生産が始まったらすぐに申込を行い、納車時期を3か月間早めることができた。

(4)失敗したこととその要因

特にありません

(5)事業内容詳細

2024年度4月当初に車両の見積り合わせを行った。日産とトヨタともにワゴン車の販売を中止しているとのことだった。2025年1月頃、トヨタでワゴン車を限定10台を販売するとの話をいただき、すぐに申し込みと契約を行った。2025年10月頃の納車予定だったが、予定より3か月間早まり、7月末に納車していただいた。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- ・2025年3月31日までに一日平均利用数を20名以上にする。
- ・月ごとに実施するスポーツの種目を子どもたちと話し合い、ルールも決める。スポーツを通して、仲間との関わり合いから友情や協調性を身につける。
- ・学習する習慣を身につけ、学力向上を図る。
- ・食事を通して、食の大切さを学ぶ機会を設ける。
- ・子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントや合宿を事業期間内に2回(夏休み・春休み)実施する。
- ・子どもたちへSTEAM学習を実施する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	484	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

- ・2025年3月31日までに一日平均利用数が30名以上となった。
- ・月ごとに実施するスポーツの種目を子どもたちと話し合い、ルールも子どもたち自身が決めた。曜日ごとにリーダーが生まれ、リーダーを中心に楽しくスポーツを行う姿が見られた。
- ・午後3時30分から4時30分まで学習時間とした。スタッフが個別に対応し、学力向上が図られた。
- ・子ども食堂では食材の栄養素について、毎回話すようにしたところ、食事を残さず、完食する子どもたちが増えた。季節のフルーツを提供するように心がけた。
- ・子どもの「経験の不足」を解消するため、宿泊行事を年二回実施した。秋には創作活動として絵画を行い、春には自然体験として雪遊びを実施した。雪を見ることが初めての子どもたちにとって貴重な体験活動となった。
- ・子どもたちへSTEAM学習を実施した。特にiPadを使っての動画作成に興味を示し、それぞれが作成した動画を発表し合い、ひとりひとりが自信をつける機会となった。

3. 事業実施によって得られた成果

二年目を終え、登録児童数が50名に増えた。ステップルの認知が拡大し、学校や保護者の理解が深まったことが登録者増加につながったと考えている。「一般家庭の児童」と「支援が必要な家庭の児童」の割合は50%である。中長期目標としては要支援の家庭の児童が80%以上となることである。そのためには社会福祉課との連携を深め、支援が必要な家庭の情報収集に努めていきたい。本事業が子ども第三の居場所を超えて、地域の絆を育む重要な役割を果たしていけるよう連携を強化していきたい。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

助成年度後の自立継続へ向けて、検討会において、「児童育成支援拠点事業」及び「地域こどもの生活支援強化事業」の内容説明と業務委託の依頼を行ったが、前向きな回答を得ることはできなかった。検討会には「子育て支援課」(社会福祉課)「教育総務課」より各2名が出席しているが、半数以上が前年度とメンバーが変わってしまうため、継続した話し合いが難しく、なかなか先へ進めない状況である。自立へ向けて、3年目は有料化を図りたいと考えている。同時に地元企業からの寄付金収入を増やしたい。

5. 事業成果物

(1) 助成契約書記載の成果物名称

動報告書 (写真等)	・活 ・車両
---------------	-----------



(2) 事業完了時の成果物名称

3,000部	・パンフレット ・車両(写真)
--------	--------------------

(3) 未作成となった要因

・特にありません

(4) 成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください↓
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/gra_gui_32.pdf
(なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)
上記で登録したURLをご記載ください。

https://nippon.zaidan.info/nf_lib/nf_libServlet/nf_lib1050?np=1019&jigyo_id=0000100511